

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

### 記

■ 実施日 2017年10月2日(月) ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
2620 7	ノロウイルス RNA定性 5F630-1450-015-875	糞便 0.5g	FOO (U)	凍結	2~8		RT-PCR(リアル タイムPCR)	検出せず	<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">重</span> 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。

## ● ノロウイルスRNA定性

リアルタイムRT-PCR法により、ノロウイルスのG I /G II を高感度に検出します

ノロウイルスは、冬季を中心に流行する感染性胃腸炎の主な原因として知られていますが、近年、調理従事者等による食品の二次汚染が原因と思われるウイルス性食中毒が増加傾向にあります。

ノロウイルスは手指や食品を介して体内に取り込まれ、腸管で増殖し、糞便および吐物中に大量に排出されます。ノロウイルスの排出は症状消失後も数週間にわたり継続すること、不顕性感染者が一定数存在しており、発症者と同様に糞便中からウイルスが検出されることが明らかになっており、新たな感染源となる可能性が指摘されています。

検査としては、イムノクロマトグラフィー法やELISA法による抗原検査が広く普及していますが、調理従事者等の非発症者を対象とした場合は、より高感度な検査法を用い、ノロウイルスを保有していないことを定期的に確認することが望ましいとされています。

本項目は、リアルタイムRT-PCR法により、糞便中に存在するノロウイルスのG I およびG II を同時に検出いたします。最小検出感度は1反応あたり50コピーであり、概ね便1gあたり $10^5$ オーダーのノロウイルスを検出可能です。調理従事者等の衛生管理や、感染性胃腸炎の診断補助にご活用ください。

### ▼ 疾患との関連

感染性胃腸炎  
調理従事者等の衛生管理

### ▼ 関連する主な検査項目

ノロウイルス抗原  
ロタウイルス抗原

### ▼ 検査要項

検査項目名	ノロウイルスRNA定性
項目コードNo.	2620 7
検体量	糞便 0.5 g
容器	FOO (U) 糞便容器
保存方法	必ず凍結保存してください
所要日数	2~8 日
検査方法	RT-PCR (リアルタイムPCR)
基準値	検出せず
検査実施料	
判断料	
備考	<b>重</b> 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。

### ● 参考文献

Kageyama T, et al : J Clin Microbiol 41 (4) : 1548~1557, 2003. (検査方法参考文献)  
厚生労働省 : 大量調理施設衛生管理マニュアル(最終改正 : 平成29年6月16日付け生食発0616第1号), 2017. (臨床的意義参考文献)